

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年9月15日～2014年9月21日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成26年9月26日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【南オセチア】

##### ▼第48回IPRM会合(19日)

・エルグネティにて、治安状況や障害物の設置が行政境界線の両側の住民にもたらす影響、行政境界線を通して通学する児童の輸送、行政境界線を越えた家畜の扱いなどについて建設的な雰囲気の中で議論。

##### ▼「独立記念日」(20日)

・20日、「独立宣言」から24周年の記念日に因み、ツヒンヴァリで軍事パレードが行なわれた。それに伴う措置として、19日と20日の2日間、行政境界線上の全ての通過点が閉鎖された。

### 2. 外 政

#### ▼グルジアとサントメ・プリンシペ民主共和国との外交関係の樹立(12日)

・ニューヨークにて、グルジアとサントメ・プリンシペ民主共和国が外交関係を樹立。議定書によれば、両国は主権平等、国家間の協力・友好関係、領土一体性、主権国家の国境不可侵、内政不干渉の原則に基づいて関係を発展させることに合意した。

#### ▼バチカン外務局長官がグルジアを訪問(13日ー16日)

・マンベルティ・バチカン外務局長官がグルジアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、パンジキゼ外相、イリア2世グルジア正教会総主教と会談。南オセチア行政境界線付近の状況を視察。

・パンジキゼ外相との会談では、両国の友好的な関係の強化に関して幅広く議論。文化、教育、人道分野における現在の密接な協力が満足を示した。「マ」バチカン外務局長官は、グルジアの主権・領土一体性および被占領地域の不承認政策に対する支持を再確認。

#### ▼中国共産党中央委員会対外連絡部の代表団がグルジアを訪問(15日)

・ガリバシヴィリ首相と会談。「ガ」首相は、グルジアはシルクロードの不可分の一部であるとして、歴史的なシルクロードの復活に関する習近平中国主席のイニシアチブを歓迎すると述べた。

#### ▼ガリバシヴィリ首相がアラブ首長国連邦を訪問(16日ー17日)

・クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣、パンジキゼ外務大臣、バチアシヴィリ共同投資基金代表らが同行。

・16日、アブダビ首長国皇太子および「ダビ・グループ」会長と会談。会談後、「バ」共同投資基金代表は、グルジアの農産物の輸出やエネルギー・トランジット回廊について関心が示されたと述べた。アラブ首長国連邦の代表団が10月末にグルジアを訪問し、個別のビジネスプロジェクトについて協議が行なわれる予定。

#### ▼クリミアで実施された「地方選挙」に関するグルジア外務省声明(16日)

・14日にクリミアおよびセヴァストポリで実施された「地方選挙」に関し、グルジア外務省は「クリミア自治共和国の併合を非難し、クリミアおよびセヴァストポリにて、国際法の規範およびウクライナの法律を明白に侵害して実施されたいわゆる「地方選挙」を承認しない。グルジアは国際的に認められた国境内におけるウクライナの主権と領土一体性に対する強い支持を改めて確認する」との声明を発表。

#### ▼モスクワ＝トビリシ間の定期航空便が再開(17日)

・2008年8月以降停止されていたモスクワ＝トビリシ間の定期航空便について、露航空局は、「グルジア外務省の口上書に基づき、9月15日より運航が再開された」として、アエロフロートなど7社に対して運行の許可を与えたと発表。

#### ▼アバシゼ対露関係首相特別代表とカラーシン露外務次官の電話会談(18日)

・モスクワ＝トビリシ間の定期航空便の再開が両国間の人道的な交流を促進することに対する期待が強調された。プラハでの会談を10月中旬に実施することで合意。

#### ▼米上院外交関係委員会がグルジアを主要な非NATO同盟国とする法案を承認(18日)

・米上院外交関係委員会が全会一致で承認した「Ukraine Freedom Act」は、ウクライナ、モルドバ、グルジアの3カ国を「主要な非NATO同盟国」に指定。最終的に議会で可決された場合、3カ国は米国からの軍事的な支援をより受けやすくなる。これまでに同様の指定を受けたのは日本を含む15カ国。

#### ▼パンジキゼ外相が国連安保理で演説(20日)

・イラク情勢を協議するために米国のイニシアチブにより招集された国連安全保障理事会で、グルジア外相として初めて演説。イラク新政府に対する支持を表明。「イスラム国(ISIL)は中東の国々を越えた広い地域に対する脅威である」として、「グルジアはISILを打倒し、地域に平和をもたらすための連合国の努力を完全に支持する。我々はテロ組織の残虐な行為の被害を受けた人々に人道支援を提供する用意がある」と述べた。また、これまで

の戦闘ミッションからグルジアが得てきた貴重な経験は、ISIL と戦うに当たり、イラク軍およびその他の治安維持軍の能力を高めるために有用であると強調。

### 3. 内 政

#### ▼イヴァニシヴィリ前首相のインタビュー(15日)

・「クヴィリス・パリトラ」紙が掲載。ガリバシヴィリ首相をはじめとする政府の働きぶりを評価。7月の内閣改造については、「ガ」首相から助言を求められたが、いかなる指示も出しておらず、新大臣らを選んだのは「ガ」首相自身であると述べている。

・今後より積極的に公の場で活動したいと述べつつも、TV番組の司会を務めるとの噂は否定。

・TV局「ルスタヴィ2」を野党の意見を宣伝していると批判。その他のTV局についても、「ルスタヴィ2」の報道の影響を受けているとして批判した。

・大統領と政府の関係については、大統領と首相は協力しなければならないとしつつ、問題を大げさに取り上げるべきではないと述べた。

・ウクライナ情勢について、政府、大統領、国会は適切に対応していると評価。

#### ▼大統領宛の国連気候変動サミットへの招待状をめぐる議論(16日)

・16日、TV局「ルスタヴィ2」が国連気候変動サミットへの出席をめぐるそれまでの大統領府・外務省間のやりとりを入手したとして公開。2014年2月25日付けの国連事務総長の大統領宛招待状を大統領府が外務省から受け取ったのは6月11日であったと報道。

・翌17日、パンジキゼ外相、ザルカリアニ外務第一次官が事情を説明。説明によれば、外務省が当初国連から受け取った招待状は宛名が「サーカシヴィリ大統領」になっており、外務省は国連に訂正を求めた。外務省は5月30日に国連から訂正された招待状を受け取り、6月5日に大統領府に送付した。

#### ▼大統領に対する批判と反論(16日)

・16日、ウスパシヴィリ国会議長は、「大統領は国家元首として国を代表して外国を訪問したり外国の元首に会ったりすることができるが、政府と合意がとれていない問題を議論すると問題となる」として、大統領だけでなく全員が憲法をよく読まねばならないと発言。また、大統領宮殿を使用しないと発言していた大統領を支持していたとして、アトネリ通りに建設中の大統領府が完成した暁には大統領はそちらに移ると聞いていると述べた。

・ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣は、大統領宮殿の建物にはもともと外務省が入ることになっていたとして、大統領宮殿を使用しないとの発言を覆した大統領を批判。

・16日、与党連合のクツナシヴィリ議員が大統領と会談。会談後、大統領と政府が対立すべきではないことで意見

が一致したと述べた。

・19日、「マ」大統領はTVで、大統領宮殿の使用を始めたのは、大統領の職務を果たすのに十分な環境がなかったことに加え、自身が望んだ大学としての使用が実現せず、また、「大統領に指図しようとする傾向」に対し大統領の独立性を示すためであったと発言。また、与党連合やイヴァニシヴィリ前首相には感謝しているが、大統領は与党連合や「イ」前首相だけではなく、国民全体に対して責任を負わねばならないと強調。

#### ▼サーカシヴィリ前大統領と親族の財産の差し押さえ(19日)

・8月末にトビリシ市裁判所は、検察が求めていたサーカシヴィリ前大統領とその親族の財産の差し押さを承認。前大統領側は控訴したが、控訴裁判所は控訴を却下。

・19日、前大統領の弁護士は、前大統領とその親族の財産が差し押さえられたとして、差し押さえされた財産のリストを発表。差し押さえる対象は、「サ」前大統領の所有するグルジア東部の農地と家、車に加え、夫人名義のトビリシ市内の家、母親名義の土地と家、祖母名義の土地と車、父親名義の車。

・検察は、財産の差し押さえは883万ラリの公金流用の容疑に関連した措置であると説明。前大統領の弁護士は政治的な迫害であると批判。

### 4. 経 済

#### ▼2014年8月の工業製品生産者物価指数(15日)

・国家統計局が発表。前月比0.3%低下、前年同月比3.8%上昇。

#### ▼2014年8月の月間生活賃金(15日)

・国家統計局の発表によれば、2014年8月の男性の月間生活賃金は150.6ラリ。前月比6ラリ増、前年同月比4.5ラリ増。平均的消費者133.4ラリ、平均的家庭252.6ラリ。

#### ▼ガリバシヴィリ首相がIMF代表団と会談(18日)

・「ガ」首相はグルジアを訪問中のIMF代表団と会談し、グルジアのマクロ経済環境や予算の指標などについて議論。2014年の目標経済成長率5%の達成に向けた希望が表明された。会談にはクヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣、ハドゥリ財務相が同席。

#### ▼2014年第2四半期のGDP(18日)

・国家統計局が発表。GDPの実質成長率は前年同期比5.2%。GDPデフレーターは4.4%増。名目GDPは7,175.1百万ラリ(4,071.1百万米ドル)。国民一人当たり906.6米ドル(2013年第2四半期は882.8米ドルであった)。

### 5. その他

#### ▼黒海沿岸での強雨(20日)

・19日夕から黒海沿岸部で降り続いた強雨により、バトゥミやポティの市内の一部が冠水。バトゥミ市長は2008年以来の規模の被害であると述べた。